

遠地津波情報発表時の引き渡し判断について

【参考資料】
令和8年2月12日
宮城県教育庁保健体育安全課

これまでの津波浸水地域における 引き渡しの判断例

「学校防災マニュアル作成の手引き」より
(平成24年10月宮城県教育委員会発行)

津波に関する 警報・注意報	大津波警報 津波警報	<u>保護者への引き渡しをしない</u> 警報が解除され、安全が確保された後に引き渡す。
	津波注意報	<u>津波の到達予想時間等を考慮して引き渡しを判断する</u> 左図の学校園を含む地域の震度に基づいて判断する。

課題）地震の揺れを感じ、直後に発生する「近地津波」と600km以上離れた地点で発生し、揺れない「遠地津波」との引き渡しの判断に関する区分けが無かった。

今後、遠地津波に関する対応については、警報等の発表期間が長期化することが予想されることから、所在する市町村の災害対策本部の判断・指示に基づいて対応することを防災マニュアルに明記する。

各学校の防災マニュアル追記例

津波に関する警報・注意報		近地津波	遠地津波※
	大津波警報 津波警報	<u>保護者へ引き渡しをしない</u> 警報が解除され、安全が確認されたのちに引き渡す	警報・注意報の解除まで長期間に及ぶ可能性があるため、<u>所在している市町村</u>の防災担当部局（災害対策本部）<u>の判断・指示に基づいて対応</u>する。 <u>例）警報継続中であっても、自宅の所在地及び自宅までの経路の安全が確認できた上で引き渡しを開始するなど。</u> <u>このことを事前に保護者や地域の関係機関と共有しておく</u>
	津波注意報	<u>津波の到達予想時間等を考慮して引き渡しを判断する</u> 学校園を含む地域の震度に基づいて判断する。	

※遠地津波とは： 震央が日本の沿岸から約600km以上離れた地点で発生した地震に伴う津波を指す。遠地津波は遠方の地震によって発生し、広範囲にわたるエネルギーを伝達するため、到達時間が一般の津波よりも長くなることもある。特に大地震によって引き起こされることが多く、過去には日本沿岸に大きな被害をもたらした事例もある。
例）チリ地震津波：1960年5月（死者139人）